

| | |
|-------------|-----------|
| 群 教 セ | E03 - 03 |
| | 平 17.277集 |

高校理解のための支援の工夫

— 意図的・計画的なガイダンス活動を通して —

特別研修員 柿沼 康成 (玉村町立玉村中学校)

《研究の概要》

本研究は、中学校の進路指導において「ガイダンス活動」を通し、高校の「教育課程」「高校生活」を理解し、高校の特徴をとらえるというのが目的である。「どのような点に着眼すればよいのか」を知るガイダンス、「学科でどのようなことを学習をするのか」を理解するガイダンス、「高校ではどのような生活ができるか」を知るガイダンスを意図的・計画的に実施することが、高校を理解するための支援となり、最終的に高校選択に活かせると考え、実践したものである。

キーワード 【進路指導 進路学習 学科理解 高校選択 情報提供 ガイダンス】

I 主題設定の理由

毎年、中学3年生が受験直前の三者面談においても進路希望先が決まらないことがある。さらに、深く考えずに高校選択をし、進学していく生徒が数多くいる。中学3年時には、当面する進路である高校進学に関する学習として、「体験入学」「学校見学」「高校調べ」などが設定されている。しかし、高等学校の再編や学科の改編、高校入試の変革が進展しているという変化の激しい状況でもあり、高校の教育課程、学科のカリキュラム、教育内容、専門学科で取得が目指されている資格などについて、生徒は十分な理解ができずにいる。さらに、それらの情報が、中学校側から生徒に向けてほとんど提供されていないという現状もある。それらのあいまいな情報によって学科を選択し、そのまま進学してしまう生徒も少なからず居り、結果として中途退学に至ってしまうという問題が発生している。生徒は高校卒業時の進路をめぐる情報（具体的な進学先や就職先など）をほとんど持っておらず、また、高校で実際にどのような生活（修学旅行、合唱祭、マラソン大会、球技大会などの行事）を送るのかということさえ知らないまま進学しているのである。

「入れる学校の選択から入りたい学校の選択への指導の転換」を目指す中学校の進路指導にあって、このような情報の収集、活用は重要な指導であり、近年は特に進路指導におけるガイダンス機能の充実を図ることが求められている。そこで、高校選択をするうえで生徒が高校について具体的に考える機会

を意図的・計画的に設ける進路指導が大切ではないかと考えた。

本研究では、生徒が「高校を理解するためにはどのような点に着眼すればよいか」ということを知るためのガイダンス活動をスタートとし、その後「この学科ではどのようなことを学習をするのか」という趣旨のガイダンスへと発展させ、さらに、生徒自身が講師を務めながら、各高校の「高校生活」に関するガイダンスへと結実させようとするものである。

「着眼点」を知り、「学科内容」を理解し、「高校生活」を知る活動を意図的・計画的に実施すれば、高校生活を具体的に理解し、高校選択に活かせると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学級活動において、高校理解のために「高校理解の着眼点」「学科内容」「高校生活」のガイダンスを意図的・計画的に実施すれば、生徒が高校生活を具体的に理解し、高校選択に活かせることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

1 ガイダンス①において、高校について生徒が既存の情報を整理すれば、情報不足に気づき、高校選択のためには、今後どのような点に着眼すればよいか知るだろう。

2 ガイダンス②において、教員が、収集した情報を基にして学科の内容を中心としたガイダンスを実施すれば、生徒は高校でどのようなことを学習するのか理解でき、高校選択に役立てようとするだろう。

3 ガイダンス③において、生徒が講師となって「高校生活」を知るためのガイダンスを実施すれば、生徒の視点でとらえた高校理解ができるだろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 学科理解について

「多様な特色ある高校づくり」の名のもと、様々なタイプの高校が新設されている。しかし、それらの学校の校風、具体的な教育内容、カリキュラムなど、教育課程の理解が中学校の教員および生徒共に十分とは言えず、残念ながらあいまいな指導と理解にとどまっているという実態がある。しかもそれらが、高校中退などの進路変更を誘発する要因のひとつになっていることも否めず、その意味では学科についての十分な理解が高校中退を防ぐための手だてになるだろうと考える。これらのことを踏まえ、ここでいう学科理解とは、高校選択をするために必要な学科の特徴を理解するという意味である。

(2) 情報提供について

生徒は「ハイスクールガイド」「体験入学」「高校案内パンフレット」などから、ある程度は各高校の学科に関する情報を持っている。しかし、それらを実生活や卒業後の進路と結びつけて考えていることは少ない。そこで、生徒がなかなか知り得ない、あるいは知ろうとしていない教育課程、具体的な就職先や進学先などの情報を提供することが大切ではないかと考えた。

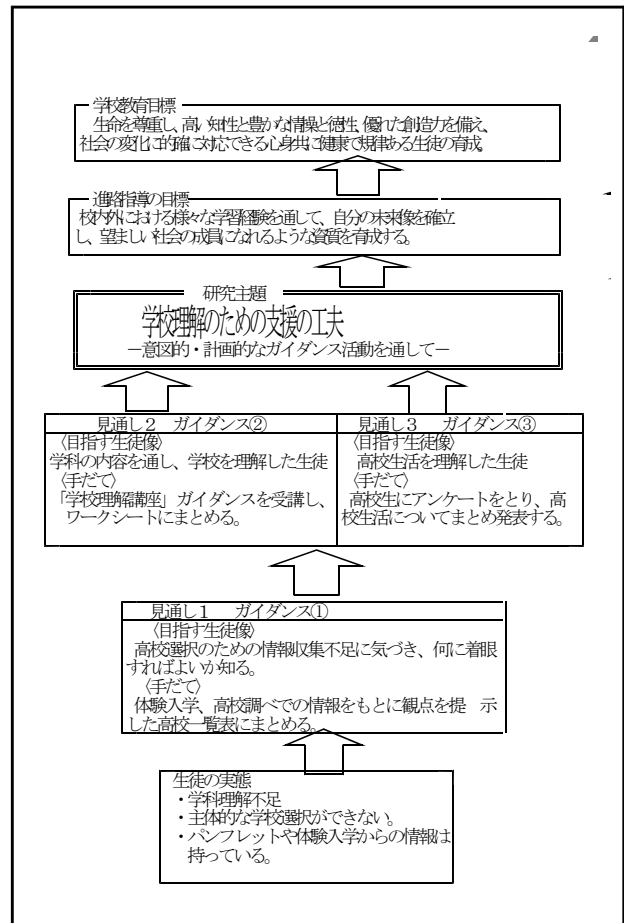
(3) ガイダンスについて

本研究におけるガイダンスとは、生徒が情報を基に高校について考えるようになる授業を指す。「どのような点に着眼すればよいのか」を知り、「この学科ではどのようなことを学習するのか」を理解し、「高校ではどのような生活ができるか」を考えられるものとする。

(4) 生徒によるガイダンスについて

生徒が生徒によるガイダンスを計画・実施する。自分たちが知りたい情報を卒業生へのアンケートやインタビューにより収集し、ガイダンス情報を生徒の視点に立ったものにする事ができると考えた。

(5) 全体構想図



2 実践の概要および結果と考察

ガイダンスの様子やワークシートの記述内容、授業後の感想などの分析を通し、学級全体及びA男の変容をとらえて考察した。

A男は2年時の「高校調べ」で、普通科の1校だけを調べた。3年の夏休みの三者面談では、第1志望を普通科の前橋B高校、第2志望を伊勢崎C高校としたが、第1志望に対するA男の情報は「普通科で進学校」、第2志望は「単位制で、今年から共学」というものであり、それらの理由は「家から近い」であった。この時には志望校の「教育課程」や「高校生活」の話は出なかった。

(1) 高校について、生徒自身の既存の情報を整理することにより、情報不足に気づき、高校選択のためにどのような点に着眼すればよいのか知ることができたか。(見通し1)

ア 実践の概要

9月下旬、ガイダンス①において、「高校調べ」と「体験入学」で得た情報を基にワークシート①(資料1)に「授業内容」「部活の様子」「就職関係」「資格・免許」「通学距離・方法」「校風(雰囲気)」「科

の内容（特徴）」の7つの観点を整理する活動を行った。情報を収集した高校は本校からの進学者が多い近隣の高校とした。総合学科では「伊勢崎興陽高校」「前橋東高校」、普通科では「伊勢崎清明高校」「県立伊勢崎高校」「前橋南高校」、商業科では「前橋商業高校」「伊勢崎商業高校」、工業科では「前橋工業高校」「伊勢崎工業高校」、その他では「勢多農林高校」の計10校である。

資料1 ワークシート①

| 体験入学・高校講義をみてガッテンシート | | | | | |
|---------------------|----------|----|----|----|----|
| | | 伊商 | 前商 | 前東 | 興陽 |
| ① | 授業内容 | | | | |
| ② | 活動の様子 | | | | |
| ③ | 就職関係 | | | | |
| ④ | 資格・免許 | | | | |
| ⑤ | 通学距離・方法 | | | | |
| ⑥ | 校風（雰囲気） | | | | |
| ⑦ | 科の内容（特徴） | | | | |
| ※ | 進学総合学科 | | | | |
| ※ | 進学単位制 | | | | |
| ※ | 専門系総合学科 | | | | |
| ※ | 高大連携 | | | | |
| ※ | 2人担任制 | | | | |
| ※ | 進路プランニング | | | | |
| 授業の感想 | | | | | |

イ 結果と考察

38人中31人（81%）の生徒がワークシートの空欄に答えをほとんど記入することができなかった。そして、活動後の感想では23人（60%）の生徒が「知識が少ないことが分かった」という類の記述をした。「空欄を埋められなかった」「言葉の意味が分からない」というガイダンス中の発言や「知識が少ないことが分かった」という感想から、高校に関する情報収集不足、学科の内容についての理解不足に気づいたと考えられる。（資料2）また、ガイダンス後、空欄箇所について「このあと調べてみたい」と生徒から自発的に申し出があり、各高校についての観点を調べることを全員に課した。提示した項目が、高校選択の際の着眼点となる旨を話し、今後、どのような点に気をつけて高校を理解すればよいか伝えた。A男の感想（資料3）からもうかが

えるように、生徒は高校を理解する際の着眼点を知ることができたと考える。

資料2 ガイダンス後の生徒の感想

- ・ 高校見学に行ったけど、分かったことが少ないから、もっと調べる必要があるなと思った。
- ・ ほとんど埋まらなかった。
- ・ 2年生の時に調べたのに忘れた。
- ・ 自分自身でびっくりするくらい分からなかった。
- ・ 高校のこと何も知らないんだなと実感しました。何の科があるかくらいは知っておきたいと思った。
- ・ どんな点に気をつけて高校を選んでいけば良いか分かった気がする。
- ・ 知らなくてはいけないことがたくさんあった。
- ・ かなり不安な気持ちになった。

資料3 生徒A男の感想

全然分からなくて、すごく不安になった。でも、これから何をすればいいのかが分かったので、自分でもよく調べようと思う。早い時期に分かってよかった。

(2) 学科の内容を中心とした高校理解のためのガイダンスを行うことで、高校の特徴をとらえ、高校選択に役立てようとしたか。（見通し2）

ア 実践の概要

ガイダンス②において「高校理解講座」を実施した。教員が事前に高校から直接入手した「教育課程」「進学状況」等を基に資料を作成した。学科にはどのようなものがあるかという全般的な内容の話をしたのち、ガイダンス①で情報を確認した10校について、1講座20分程度で2講座を実施した。1講座ごとに、履修の仕方や教育課程、どのようなことを中心に学習するかの説明をした。その際、その学科で学ぶメリットとデメリットの情報も提供し、同じ学科でも違いがあることを示した。さらに、卒業後の進路状況の比較も行った。

イ 結果と考察

ワークシートを活用したので、生徒の視覚に訴えるガイダンスになったと思われる。（資料6・7）「高校理解講座」全ての回において、生徒の感想に「わかった」という記述が多くみられたことから、ガイダンス②によって生徒は高校の特徴を理解できたと考えられる。（資料4）ガイダンスでは、実際の高校を例に具体的に話をするので、偏りがないように公正な立場で進める必要があると実感した。ま

た、クイズ形式にするなど、生徒参加型の形をとれば、生徒は楽しみながら集中できるため、1時間の授業がより充実するものとする。事前に予想される質問を想定しておくなど、実際には相応の準備が必要だと感じた。

資料4 ガイダンス授業後の生徒の感想

- ・商業科は思っていたより進学率が高いとわかった。
- ・総合学科は、将来の進路が明確でないと無駄になる場合もあると知り、将来のことをはっきり決めていない人は選ぶべきでないと思った。
- ・◇◇科では、資格が取得できるというものではないが、就職率が高いということがわかった。
- ・◆◆高校では、単位制で、自分の将来に合ったものがとれるのでいいと思いました。
- ・大学に進学するなら普通科がいいと思った。
- ・工業科は機械科のことしか知らなかったけれど、たくさんの科があり、卒業後のことを考えて授業があることも分かって良かった。
- ・知っている先輩の話が聞いて良かった。
- ・総合学科でも全然違うんだと思った。

「大学に行くなら普通科がいい」「総合学科は将来の進路が明確でないと無駄になる場合もあると知り、将来のことをはっきり決めていない人は選ぶべきでないと思った」という感想やA男の「自分の必要なだけの学習時間が確保できそう」（資料5）という感想などから、生徒は学科の理解を通して高校を理解し、高校選択に役立てようとしたと考えられる。

資料5 抽出生徒A男の感想

3分前チャイムかあもしろいと思いました。45分授業だけ。しかし勉強にかを入れているし、土曜学習も、学習室開放がある自分の必要なだけの学習時間が確保できそう。

資料6 ワークシート②

〇〇高校

進学型単位制高校 他には△△高校、今後 高校校も移行予定

3年間のトータルで考える・・・進級の認定がない。留年はないが、卒業延期はある。異学年の混合授業もあり得る。

メリット 各自の進路希望に添った自分に最適な時間割で授業を受けられる。

ちょっと待った・・・勝手に時間割は作成できない。

- 学習の順序がある。
- 必修科目は全員履修
- ※1年次の選択科目は芸術(書道、美術、音楽)のみ
- 合格発表後に事前調査

ガイダンスセンター

- ①進路カウンセリング
- ②進路相談と科目選択のアドバイス
 - ・履修パターン(国立文系・国立理系、薬学系・私立文系私立体育学部系 など)
- ③興味・関心の発掘(諸検査)
- ④生徒・保護者・教員への情報提供
- ⑤進路学習を中心にした『総合的な学習』の計画・立案

授業について

- ☆1日7時間授業 1コマ 45分授業
- ☆10人以上いれば選択希望者が少なくても開講
- ※進路実現に直接必要でない5~6人については変更してもらうことはある。
- ☆3分前チャイム
- 授業開始3分前にチャイムがなり、移動・授業準備をする。(45分授業確保のため)

資料7 ワークシート③

商業科どんなところ?

△職業編

| | 学習内容 | 目指すもの |
|------|------------------------|------------------------|
| 商業科 | 総合的商業に関する知識・技術習得を目指す。 | |
| 会計科 | 財務に関する学習中心。 | |
| 情報理科 | 情報処理に関する専門知識・技術習得を目指す。 | 就職だけでなく、資格を生かして進学を目指す。 |

2年進路希望者進路希望者(単位制)・・・それぞれの進路が決定

| | 14年度 | 15年度 | 16年度 |
|----------|------|------|------|
| 日商簿記検定2級 | 32名 | 36名 | 44名 |
| 全商簿記検定1級 | 50名 | 70名 | 90名 |
| 全国簿記検定1級 | 25名 | 36名 | 126名 |

△商業概

自習時間の授業・・・3分前チャイムで職員室の掲示

習熟度別編成・・・

自習室開放・・・部活やっている生徒が夜7時~9時まで開放

生指導・・・制服着こなした校前でチェック

☆卒業の進路

平成〇〇年度 275名

進学 194名 (70%) 大学57 短大42 専門学校95

就職 81名 (29%) 民間企業3 公務員 其他

あれっ 意外と進学する人が多ぞ

(3) ガイダンス③において、生徒が高校の「セールスマン」という形で「高校生活」についてのガイダンスを実施することで、生徒の視点でとらえた高校理解ができたか。(見通し3)

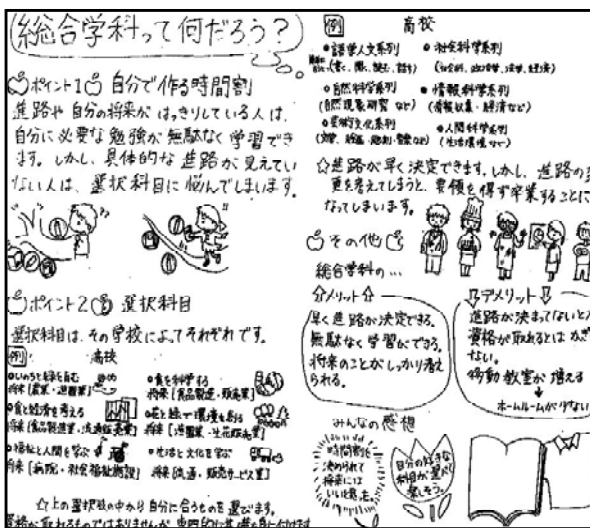
ア 実践の概要

各高校ごとに4～5人のグループを編成し、「高校生活」を知るためのガイダンス資料を作成した。全員に与えた課題ではないが、各グループは放課後や昼休みを利用してガイダンス資料(資料8)を作成していた。生徒にはガイダンスする人が「セールスマン」という立場になるので、高校の良い点を強調したガイダンスを心がけるように指導した。

イ 結果と考察

ガイダンスの機会が設定されたことで、相手に正確に分かりやすく情報を伝えようと、イラストの挿入などの工夫を凝らしたグループもあった。

資料8 生徒のガイダンス資料(教育課程編)

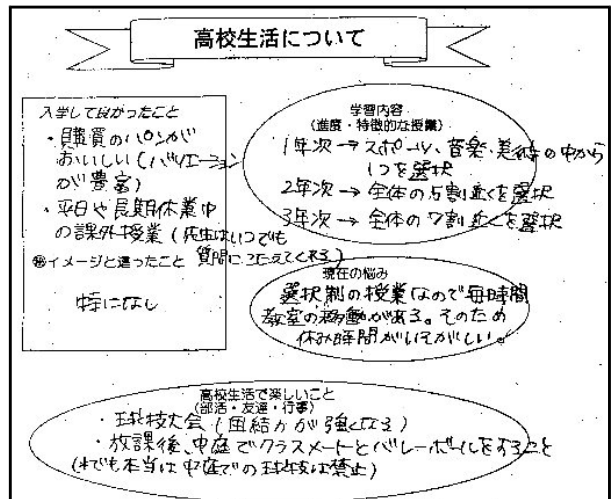


また、高校紹介の本「ぐんまの高校」を見て、資料作りに取り組んでいる様子も見受けられた。そして「マラソン大会がない」「水泳の授業がない」「購買のパンがおいしい」など、実際の高校生活を楽しく過ごすうえで、生徒にとっては重要なポイントということでガイダンスをしたグループもあった。(資料9)

資料9 ガイダンス内容(一部抜粋)

- ・服装、頭髪の検査がある。かなり厳しい。
- ・女子だけだとすっぴんでいい。
- ・制服が格好良い。
- ・図書館でたむろするのが楽しい。
- ・良い先生が多い。先生が面白い。
- ・いじめがない。
- ・自販機に炭酸がない。

資料10 生徒のガイダンス資料(生活編)

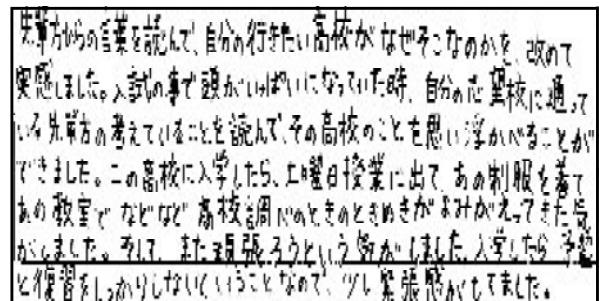


資料11 ガイダンス後の生徒の感想

- ・先輩の話などは、先生が説明するよりもすごく説得力があった。
- ・知りたいことが分かって調べたりしたので、資料を作りやすかった。(ガイダンスグループ)
- ・本には載っていない実際の話を知ると、わくわくした。
- ・高校では自由がほしいので校則が厳しいところはやっぱり嫌だなと思った。
- ・〇〇さん達の△△高校の◇◇学科の説明は、職業とかも絵でかいてあったので良かった。

「校則が厳しいところは嫌だ」という感想(資料11)や「この学校に入学したら土曜日授業に出て、あの教室で、あの制服を着て」というA男の感想(資料12)などから、生徒の視点でとらえた高校理解ができたと考える。また、A男は「自分の行きたい高校がなぜそなのか改めて考えた」という感想を書いていることから、ガイダンス③がA男の高校選択に活かされたと考える。

資料12 抽出生徒A男のガイダンス後の感想



また、作成された資料の善し悪しもさることながら、「調べたことをうまく伝えられない」など、生徒のプレゼンテーション力の有無によってガイダンスの印象が違ってくるのがわかった。今後はその点についての指導も必要であることを実感した。

V 研究のまとめと課題

1 研究のまとめ

高校一覧表のワークシートへの記入作業は、観点を視覚でとらえることができるため、高校を選択する際にどのような点に着眼すればよいかということについて生徒が理解するのに有効だった。活動後、生徒が自発的に「高校調べ」をすることになり、以前は穴埋めができなかったところを調べることになったが、調べる観点がはっきりしていたため、効率よく調べることができた。

また、中学校の教員の多くが普通科出身であり、専門高校の様子についての理解が浅いことが課題であった。しかし、今回、生徒に正確な情報提供をするために行った、教員自身の学科に関する情報収集活動を通して、教員が専門高校についての理解を深めることができた点は良かったと考える。今後さらに改編が進む学科についての理解は、生徒だけでなく、教員自身にも必要であると痛感した。

生徒による高校生活についてのガイダンスでは「マラソン大会がない」など、教員の発想では触れることのない内容も多く、生徒の視点に立った内容で構成されている点が効果的であった。

2 今後の課題

2年生のときに実施した「高校調べ」は調べる観点が明確ではなく、単にダウンロードしたものを書き写すという作業に終始し、主体的ではなかったという課題があることがわかった。

初めのガイダンス活動の開始が9月下旬にずれ込んだことから、最後のガイダンス活動が11月下旬になってしまった。生徒は高校を選択する余裕のない時期となり、「高校で何をしたいか」「どのような勉強をする学科なのか」「自分の興味あるものは何なのか」「どのような高校生活を送りたいか」という観点ではなく、「行ける学校」を選択する生徒が数多く出てきた時期だった。この点を反省し、せめて夏休み前までに興味のある学科を絞ることができれば、体験入学へ参加する際に、同じ学科を複数校見学することができ、もっと比較・検討の材料にできたのではないと思われる。また、「友人が行くから自分も行く」というような安易な判断もなくなり、体験入学に対する参加意識の改善も図れると考える。

今回は、クラス単位で高校を理解するためのガイダンスを実践したが、これらのガイダンス活動の輪

を学年全体に広げていくことで学年全体の進路意識が変わると考える。

進路指導は、よりの確な時期に的確な情報をどのように提示するか、また、生徒の理想と現実の差をどう気付かせ埋めていくかということが大切だと感じた。

〈参考文献〉

- ・埼玉県中学校進路指導研究会『進路指導を核とした学級活動の展開』実業之日本社(2000)
- ・高橋 哲夫 著 『ガイダンス機能によるこれからの生徒指導、特別活動』教育出版株式会社(2004)
- ・仙崎 武 著 『担任のための生き方教育としての進路指導』学事出版(1999)
- ・仙崎 武 著 『中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン』実業之日本社(2001)
- ・仙崎 武 著 『入門 進路指導・相談』福村出版(2000)
- ・石川県鶴来町北辰中学校 著 『一人ひとりの生徒を生かす生徒指導』教育開発研究所(1992)
- ・仙崎 武 著 『入門 進路指導・相談』福村出版(2000)
- ・国分 康孝 著 『進路指導と育てるカウンセリング』図書文化(1998)
- ・群馬前橋市立第七中学校進路指導研究会 著 『明日をひらく進路指導』東洋館出版社(1995)
- ・向山 洋一 著 『生き方を指導する進路指導の法則』明治図書(2005)

(担当指導主事 中西 信之)

